

風紋

認知症ケア講座

認知症高齢者への看護の質を向上させようと、磐田市立総合病院は今夏から、同市と森町の看護師に認知症看護のノウハウを伝える「認知症ケアエキスパートナース」育成講座を月に1度、実施している。講師を務めるのは同病院などの認知症看護認定看護師と認知症ケア専門士。地域包括ケアシステムの構築が重要視される昨今、所属の垣根を越えた知識の共有が求められる。

65歳以上の高齢者が全人口の21%以上を占める超高齢社会に突入したわが国。厚生労働省の認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)によると、2025年には認知症高齢者が約700万人(65歳以上の5人に1人)に達するとみられる。

磐田市(約17万人)では全体の約27%に当たる約4・7万人が65歳以上で、認知症高齢者は約4800人。同病院でも今後来院・入院する認知症高齢者数の増加が見込まれる。身体疾患に加え、病院という慣れない環境に身を置くことで、さらに認知症の症状が悪化したり、混乱状態に陥ったりすることもあるという。

患者の住みよい地域へ

当事者の抱えるこうした問題を理解し個々のニーズに合わせたケアを実践できるようにするため用意されたのが同講座だ。

11月の回では、コミュニケーションをテーマに扱った。情報処理能力や理解力が低下する、注意を向けられる範囲が狭くなる、など患者の特徴を理解した上で、患者役と看護師役の2人一組でケアの流れを確認した。声の掛け方や体の触れ方などは、いずれも「患者を驚かせない、不安にさせない」を徹底した動作で、感心した。

参加者は「学生時代に勉強して以来の内容を丁寧に振り返ることができ」「他の看護師との情報交換の場にもなっている」と手応えを口にする。講師を務めた同病院の認知症看護認定看護師、鈴木智子さん(46)も「講座に参加する看護師の輪を広げ、各病院や施設の連携が強まれば」と効果を望む。

同病院関係者に取材するたびに聞く「地域医療の充実」「患者の安心安全」の言葉通り、受講した看護師が認知症の高齢者が住み慣れた地域で豊かな生活を送るための大きな支えになることを期待する。

(磐田支局・駒木千尋)